

港区立白金小学校
令和4年度 授業改善推進プラン

1 本校における課題

国語	<p>全学年を通して、平仮名・片仮名・漢字などの文字を正しく書くことに課題がある。また、主語・述語、修飾語や指示語を扱う言葉の学習も課題である。そこで、漢字や言葉の学習を重点的に行うにする。1、2、3年生は、学習指導要領にある「書くこと」の言語活動例を参考に、年間を通して計画的に「書く」活動を行う計画を立てる必要がある。4、5、6年生は、「話すこと・聞くこと」において、自分の考えを話すことや、話し手が伝えたいことと自分が聞く必要のあることの両面を意識しながら聞き、感想や考えを形成することに課題がある。また、「読むこと」において、自己解釈が入り正しく読めていないことがある。叙述を基に、文章の構造や展開を捉えたり、内容を理解したりすることも課題である。モジュール学習で、それぞれの領域を、計画的に取り組める活動を行っていくことで課題を解決できるようにしていく。</p>
社会	<p>全学年を通して、資料を正確に読み取り、知識や技能の定着はあるが、社会的事象の背景を考え、考察する力に課題がある。学習活動の中でのノート・発言や、単元末テストの結果からも、一問一答のように解答する単語を答える問題に関しては正答率が高いが、用語を説明する問題や、自分たちにできることを考えたり、社会的事象を多角的に考えたりして考察していく問題に課題が見られる。また、本校の実態をみると学習内容を先行して学んでいる児童が多く、2割程度の児童が社会科を苦手としていると考えられる。学習の理解度について差があるという点も課題であると言える。9割程度の児童が社会科を楽しく学習できているので、興味・関心をもてる授業展開を継続し、資料の読み取りを正確に行っていくことで、基礎的な知識を身に付けていく。その後、社会的事象について説明したり、自分の考えを述べたりする活動を多く学習活動に取り入れることで課題を解決できるようにしていく。</p>
算数	<p>全学年を通して、加減乗除の基本的な計算についてはおおむね満足できる状況にある。特に低学年では九九をしっかり習得し、学習に取り組むことができている。東京ベーシックドリルの結果から、高学年では図形の意味や性質、構成要素の理解が十分でなく、5年生では44%、6年生では43%の児童が、正確に図形をかくことができていることが分かる。また、6年生の人口密度を概数で示すといった課題については71%の児童が誤答し、基準量、比較量、割合の関係を正確にとらえることができていることが課題である。二つの数量の関係について、変化をとらえて考えることが不得手であると考えられる。本校の特色として、先行して学習をしている児童が多い。発展的な学習に取り組み、「知識」は豊富である。しかし、問題を解釈し適切な計算方法で求めることができる理由を言葉で表現することは苦手である。学習の基礎基本となる学習内容の定着を確実に当該学年で身に付ける。また、多様な考え方を自分の言葉で説明することができる活動を行っていくことで課題を解決できるようにしていく。</p>
理科	<p>全学年を通して、観察や実験にすすんで取り組む姿が多く見られる。また、学習内容を先行して学習をしている児童が多く、知識も豊富である。しかし、以前の区学力調査の結果から、基礎的な知識を活用して考察する力や考えたことを自分の言葉で表す力に課題が見られた。中学年では、観察の仕方や手順を正しく理解していない児童や考察ができない児童が多く見られた。そのため、観察の視点を明確に示し、実験結果をもとに、考察を深める時間を十分にとれるような授業を展開していく。また、ペア・グループでの観察を行い、他者の考えを取り入れていくことで観察のポイントを把握し、自ら考察できる児童を育てられるようにする。高学年では、知識や技能の習得に差が見られる。そのため、単元末・学期末に振り返りクイズを実施したり、学びポケットを活用し、学習内容を共有したりして、知識の確実な定着を図る。また、技能面に課題がある児童には、個別の支援を行うことで、技能向上を図り、課題を解決できるようにしていく。</p>

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<p>・言語活動を通して、言葉による見方・考え方を働かせ、互いの立場や考えを尊重して伝え合う力を育てる。また言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を育てる。</p>	<p>・漢字や言葉の学習を重点的に行う。</p> <p>・まとめや振り返り、学習感想など自分の思いや考えを日常的に書く学習を日々の学習に取り入れる。</p> <p>・書いた文章を共有する時間を設けて、友達の文章を見て自分の文章をよりよいものにする機会を作る。</p> <p>・自分の意見を臆せず発表できるよう、発表の回数を増やすことで話すことのスキルを身に付けさせる。</p> <p>・相手に共感したり、受容したりしながら話を聞く活動を取り入れ、話の聞き方のスキルを身に付けさせる。</p>

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<p>・問いを見出したり、課題を追究したりする活動を通して、社会的事象の見方・考え方を働かせ、資料から事実を読み取ったり、自分なりの考えを導き出したりする力を育てる。</p>	<p>・多様な資料の読み取り方や着目する視点を教える。</p> <p>・読み取った内容のまとめ方を教える。</p> <p>・多様な考えを共有する活動を意図的に行うようにする。</p> <p>・小単元を通して、資料の読み取りの活動や読み取った内容をまとめる活動、自分の考えを見いだす活動を行い、児童が自ら学習問題について考えられるような体制をつくれるようにする。</p> <p>・小単元を通じた指導の仕方を統一し、学習問題・学習計画を作り、それについて調べ、学習問題に対する自分の考えをまとめるという流れを確立し、「調べる段階」では、読み取ったことを工夫してまとめる力、「まとめる段階」では、学んできたことに対して自分の考えを文章で書く力を育てられるようにする。</p>

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<p>・数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的な表現を用いて、事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力を育てる。</p>	<p>・各時間における、指導と評価の計画を作成し、個々の児童の学習状況を確実に把握する。</p> <p>・問題場面を把握させる場面では、既習の内容を確認し児童が自力解決できる見通しをもたせる。</p> <p>・レディネステストを活用し、算数少人数クラスの展開を工夫する。</p> <p>・他の児童との対話を通して問題解決する場面を設定し、素朴な解決から取り上げ、学びが深まるよう発表・検討場面を工夫する。</p> <p>・自分の考えを表現できるようそれぞれの段階に応じた表現方法を指導する。特に発展的な学習に取り組める児童については、複数の方法で既習の学習に帰着させて考えたり、それに説明を加えさせたりして表現できるようにする。</p>

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<p>・理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育てる。</p>	<p>・器具や機器などを目的に応じて工夫して扱う。</p> <p>・観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録する。</p> <p>・複数の自然の事物・現象を比較したり、関係づけたりして、差異点や共通点を捉える。</p>

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と身近な人々、社会、自然との関わりについて、気付いたことを基に、自分や自分の生活について、考えたり、表現したりする力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に植物の世話をしたり、学校や地域を探検したりするなどの場を設定し、自然や人々と関わる体験をさせる。 ・グループや、1、2年生によるペアタイムの中で、積極的に活動を行わせる。 ・手本となる観察カードを紹介し、どのように書いたらよいかをつかめるようにする。 ・観察カードにまとめる前に、視覚、嗅覚、触覚など観察の観点をもたせてから、表現活動に移らせる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けて考えられる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽を知覚・感受する場面を、適切に設定する。 ・音楽を形づくっている要素と要素同士の関わり合いを感じ取るため、知覚・感受したことを思考の流れに沿って記述したり、児童の姿をよく見取り適切な投げかけをしたりする。 ・音楽的な学びを支えにしながら、他者との対話を通して自らの考えを深めたり、広げたりするために児童同士で関わり合う場を設定する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具を正しく使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や工具の使用について、正しい使い方、手順を身に付けさせられるよう、図や模範指導を使い説明する。 ・材料や参考作品を充実させることにより、それらとの出会いが児童の発想・構想を深めるきっかけとなるよう働きかける。 ・「技能」は一定の手順や段階を追って身に付いた後、変化する状況や課題に応じて主体的に活用する中で身に付く。低学年で身に付けた技能が中・高学年で活用されるよう、横断的な取組を行う。例えば、絵の具を使用する題材では、低学年→クレヨンで縁取り、中を塗る。中学年→にじみや色の変化を表現する。高学年→モダンテクニックなど幅広く表現する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や家庭、衣食住、消費などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。技能を磨くために、裁縫は個人で作成させるとともに、調理は二人一組で行えるよう準備するなど、児童の活動時間をしっかり確保する。 ・家庭生活を大切にする心情を育み、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。学校だけでなく、学期に1回以上家庭で実践する課題を出す。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・その特性に応じた各種の運動の行い方や健康・安全について理解するとともに、基本的な動きの技能を育てる。 ・運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさを実感できる場の設定や教材を工夫したり、スモールステップで授業を進めたりしながら、基礎的な動きを身に付けるようにする。 ・ICTを活用し、自分の動きを客観的に捉えて、友達と課題について話し合うことを通して、解決できるようにする。 ・教員が指導する場合に、技能ポイントを理解して明確に伝えられるようにする。 ・授業の帯の時間で、キャッチボールや、握力アップ体操、短縄、持久走を実施することでそれぞれの体力の向上を図る。 ・校庭、屋上、中屋上の遊び場の環境整備を行い、運動の日常化を図るようにする。 <p>【校庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼休みにスポンジボールでの遊びを開放し、ボール投げの経験を増やすようにする。(投力) ・持久走カードや縄跳びカードを配布し、休み時間に挑戦できるようにする。(持久力) <p>【屋上・中屋上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立ち幅跳び、反復横跳びの場を作り、いつでも記録に挑戦できるようにする。(跳躍力、瞬発力)

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動を通して、相手意識をもって会話活動を楽しむ力を育てる。 ・単語や会話をしっかりと習得し、活用して会話や発表を通して自分の思いを英語で表現ができる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、単語習得活動、会話習得活動を積み重ね、会話活動、発表活動へとつなげる。 ・ペアで習得状況を確認し、教え合うことを通して、どの子ども話せるようにする。 ・全体での練習の後は、ペア練習を重ね、中間評価を入れることで、ねらいに沿った力を付けていけるようにする。 ・最終活動を魅力的なものにすることにより、そこに向かう過程で、自分の思いを表現できる力を付ける。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の精神をもち、本年度の重点価値項目「親切・思いやり」の部分の他者を思いやる深い心情を育てる。 ・多様な考えに触れ、それぞれの考えを深め合う力を育てる。 ・学んだ価値項目を実践しているようにする道徳的実践力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業では、導入を発達段階に応じて工夫し、教材文やその価値項目に興味関心をもたせる。児童の発言に対して、切り返しの発問を行い、登場人物に自己投影させ、心の葛藤やその心情にじっくりと浸らせたうえで、価値項目について考えさせる。 ・補助発問を工夫するなどして、多様な考えを取り入れ、思考を深めるきっかけをつくる。 ・道徳の授業をきっかけとして、学年の実態に応じたためあてを立て振り返る機会を設けたり、掲示物を通して常に意識させ振り返る時間を設けたりするなど、学校生活全体を通して道徳的実践力を身に付けさせていく。

特別活動	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団生活をよりよいものにするために、進んで話し合い、合意形成していくことができる力を育てる。 ・ 集団の中で、人間関係をよりよいものへと形成していくことができる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級会における児童自らが意欲的に話し合おうとする議題の果たせ方・話し合いのルールを明確に提示する。そのルールも話し合いを経験していく中で、児童自らが改善していく。自分の思いだけにこだわるのではなく、多様な考えを尊重し合いながら合意形成に至る話し合いの仕方を身に付けることができるように、自分たちで解決する体験をさせたり、全体について考えることができるような助言をしたりする。 ・ 多様な考えをもつ他者と集団生活をしていくうえで必要な資質能力を、学校生活全体を通して、その都度指導したり、話し合いをしたりして、よりよい人間関係を構築していくことができるようにしていく。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現するという、探究的な学習の過程において発揮される力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を経験できるようにするために、教師が探究のプロセスを理解する。教師が探究のプロセスの理解を深めるために、それぞれの過程でどのような指導を行えばよいのかを明らかにする。